

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会
令和3年度第3回 理事会議事録

令和3年4月21日（水）13:00～15:00

国立京都国際会館

【出席した理事】伊東 学、大鳥精司、小田剛紀、西良浩一、田中信弘、筑田博隆、
西田康太郎、根尾昌志、波呂浩孝、松山幸弘、山田 宏、渡辺雅彦

【Web で出席した理事】川原範夫、高相晶士、千葉一裕、長谷川和宏

【出席した監事】小澤浩司、小西宏昭

【議事の経過の要領及びその結果】

松山幸弘理事長が議長となり、開会を宣して議事に入った。

理事長挨拶（松山理事長）

明日からの第50回学術集会は、コロナ禍の影響で座長等欠席の場合もあるので、理事会メンバーでサポートしていきたいと述べ、審議に入った。

審議・決議事項

1. 前回議事録の確認

松山理事長が、前回議事録について確認を求めた。追加で修正等ある場合は、渡辺理事へ一報することになった。

2. メンバーシップ・コンプライアンス委員会より：会員審査（4月分）

4月の入退会について全員を承認した。

3. 倫理委員会より：委員追加の件

今後の研究上、当学会の倫理委員会を厚生労働省研究倫理審査委員会報告システムへ登録する必要が生じている。しかし、倫理委員会に求められる条件のうち「一般の立場から意見を述べることのできる者」がおらず、複数を求められている「倫理審査委員会の設置者の所属機関に所属しない者」が一名しかいないことが問題である。そこで、現在事務を担当している株式会社毎日学術フォーラムの鈴木めぐみ氏を登録してはどうかと提案した。

松山理事長が、顧問弁護士の一人である大磯弁護士や株式会社毎日学術フォーラムに確認したところ問題ないとのことだったと補足した。

一同検討の結果、鈴木（大塚）めぐみ氏個人に倫理委員を委嘱することを承認した。

2. 審議・決議事項

1. 倫理委員会報告

前回理事会以降倫理委員会で行った審議結果や経過について報告した。

2. 国際委員会報告

SAS の件で NASS と協議の結果、1) 基本的には JSSR サイドはオンライン参加であること、2) ファカルティの参加はシンポジウムが中心となること、3) シンポジウムの JSSR サイドの座長はアサインしたこと、などを報告した。

令和2年度の ATF の件では、すでに選出済みの10名がコロナの影響で海外への渡航ができていない。国際委員会から10名に現状を連絡し、コロナ収束後の参加の意志を確認し、受け入れ先の状況が許せば、来年以降に実施する方針としたことを報告した。

また、令和3年度の募集は行わなかった。今後、新型コロナが沈静化した際には、募集を行うが、今年の募集ができない場合には2年間募集を行わないことになる。この2年間に年齢制限を迎えてしまう候補者に配慮し、これまでの年齢上限の引き上げや、派遣人数を増やす等の措置を考慮する方針を説明した。

SAS へ参加する役員に対する学会本体からの支払いに関して検討し、今回はオンライン参加なので前回と同一と考えず、国際委員会内で検討することとなった。

3. データベース委員会報告

2021 年秋からスタート予定のレジストリー「JSSR-DB 2021」について前回からの進捗や概要を再度報告した。ロードマップの改訂版も示され本登録の開始は2021年9月を予定していることを報告した。

リーズンホワイにてシステムを製作するが、プロトタイプ構築時などに、理事会各位にはご意見をいただく予定と説明し、一同了解した。

第50回学術集會中の2日目（金曜日）に、レジストリーの方法や概要等を紹介・説明する時間を設けているが、コロナ等で会場に来られないレジストリー参加予定者も多くいるため、webでも配信予定であると説明した。

4. JSR 編集委員会報告

前回理事会にて説明した『JSR』誌への二重投稿に関する部分を今月中に修正して投稿規程をアップすると報告した。

次に、学術集會の抄録集は『JSR』誌の3号目であるが、それが紙媒体で発刊されるのは今年が最後の年であることを確認し、その後はポケットプログラムとアプリのみになるが、両方とも大正製薬が無償提供してくれている状態であると説明した。しかし、今後の無償提供については未定であり、抄録集を既にオンライン化した日整会からも情報を得て対応していくことになった。

抄録アプリ「MICEnavi」についても現在の学術集會運営事務局であるコングレの子会

社が運営しているものなので、第52回から運営事務局がJCSに替わるにあたり、同様の機能のものを提供してもらえるのか否かJCSに確認することになった。

5. 脊椎関連学会連携促進委員会報告

本日理事会前に各脊椎関連学会の代表者で構成された委員が集合し、今後の脊椎関連の学術集会の在り方について検討したことを報告した。

- ・委員会の名称は正式に脊椎関連学会連携促進委員会に決まった
- ・企業バジェットが縮小傾向にあり、小さな学会だけでは学術集会在近い将来なりたつていなくなる
- ・医師の働き方改革が始動すると、学術集会での講演なども勤務時間としてカウントされてしまい、多くの学会に参加することは不可能になる
- ・日本外科学会などはすでに会員にアンケートを取るなどして、今後の学術集会の在り方を検討しており、当委員会でも会員に向けてそういったアンケートを実施したい
- ・以前「Spine week」として、腰痛学会・側弯症学会・インスト学会の3つの「秋に学術集会を行っている脊椎関連学会」が連合して学術集会を行ったことがあったが、すべて同規模でイニシアティブをとれる団体がなく、結局一度で終わってしまったことなどが説明された。

そのうえで今後については、現在の委員会内での「案」は以下のようなものであると紹介した。

- ・現在春に行っている JSSR 学術集会を、たとえば春と秋の2回開催にする
- ・そのうえで、脊椎関連の他の学会も3日目や4日目などに特設セッションを設けるなどして JSSR と連合して学術集会を行う
- ・大きなメリットとしては
 - ①学術集会がまとまることで、医師が学会に参加する日を削減できる
 - ②しかしながら内容はしっかりと JSSR 以外の団体も特徴を出して演題を組むことができる
 - ③会場代などの経費面（何回も別々にいろいろな場所で、それぞれ異なるコンベンション会社を使って行うより、経費が浮く）
 - ④企業バジェットを集めやすくなる
 - ⑤JSSR という脊椎のトップにある団体がしっかりとイニシアティブをとってまとめることができる

などである。ただし、今までのそれぞれの学会の在り方があるので、すぐというわけではなく5年程度先を見越しての話になると補足された。

松山理事長が、働き方改革などを考えると、できるだけ迅速に進めてほしいと依頼した。統合するのは学術集会であり、学会（法人であることも）自体を統合するといことではないことが確認された。

6. その他の委員会報告

COI 委員会の川原理事が、「COI の一斉提出」は2年に1度で役員および委員会改選に合わせて行われているため、今年ではなく一斉提出は次年度となること、ただし新規の委員になり特に研究に関わるなど COI 提出が必要な委員だけは出してもらうというルールで、今年の COI 提出を促してよいかと確認し、一同川原理事の提案通り例年通りでよいと承認した。

7. 第50回学術集会会長より：JSSR2021準備状況について

明日から開催される第50回学術集会の準備状況を報告した。特にこの2週間に急激に拡大した新型コロナ感染のために状況が一変してしまい、現地参加予定であった先生方もかなりの数参加が難しくなり Zoom 参加になった。今回の目玉の特別講演の吉野彰先生（2019年ノーベル化学賞受賞）も Zoom での講演に変更になったと報告した。そのほか

- ・第1から第3会場は、アーカイブ化の許可をいただいた先生は全て撮影し、その記録を学会に残すこと。

- ・未来志向の強い3つの主題の中からそれぞれ選出されるレジェンドアワード審査（審査員は理事）で同点になった場合は、座長（理事）が最終的に受賞者を決めること

- ・座長が現地不在の場合には、なるべく大阪医科大の医師で引き受けるが、無理な場合は理事会メンバーにお願いしたいこと

などを述べ、一同了解した。

また総会の様子を撮影してオンデマンドで流してよいかと提起し、一同検討の結果根尾理事の希望通りでよいと承認した。

また座長が自己都合で来られなくなった場合や、Zoom とつなげる際のトラブルにより欠席になった場合など、様々なケースについて「座長を務めたことを認めるか否か」を検討した。完全に自己都合の場合を除き、座長実績を認めることになった。

以上

令和3年4月21日

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

議長 理事長 松山幸弘

監事 小澤浩司

監事 小西宏昭